

「北澤八幡神社の秋祭り～お神輿地図と9つの睦会」

540年の歴史ある「北澤八幡神社」と20数基のお神輿～

下北沢駅から南に徒歩約10分のところにある北澤八幡神社。普段は、駅前の賑やかさとは打って変わって、大きな木々の姿も気持ちよく、鎮守神がおられるという雰囲気ある境内です。およそ540年の歴史がある八幡様は長らく北澤村の中心地でした。9月第一日曜日の大祭には境内も縁日で賑わい、近隣からお神輿20数基が集まって一気に階段を昇っていくさまは見事なもの。これほどのお神輿が、いったい、どこからどこを練り歩いて北澤八幡神社の本殿にまでやってくるのでしょうか。山の手随一の規模というお神輿を支えている睦会の「お神輿地図」を作成して、それぞれの睦会長に地元の様子をうかがってみました。

*

もともと1980年代の半ばまで、北澤八幡神社の氏子となる下北沢周辺の町の区割りは、北沢1丁目から5丁目となっていました。お神輿を担ぐ睦会も丁目に沿った区割りでしたが、町名が変わって区割りが8つになり、今は、8つの睦会と、それらを調整する「惣町睦」の合計9つの睦会があります。お神輿は神様をお乗せして街の様子やそこに暮す人々を見てもらうために繰り出されるもので、三社祭に代表されるように下町で盛んでした。

関東大震災をきっかけとして、下町からこちらのほうへ大勢の方が移住してきましたが、そのときに職人さんたちも移住。北澤八幡神社の盛大なお神輿文化の基礎を作ったとのこと。下北沢周辺とはいえ、地域によって雰囲気がずいぶん違います。「街」はさまざまな方たちによって構成され、支えられているということを感じました。

【惣町睦会】～8つの睦の惣領としての睦会～

昔のお神輿担ぎは、とかく荒っぽいもので宮入の一番乗りを巡っての小競り合いなど、睦会同士がぶつかりあうことが繰り返されてきました。そこで、全体を調整する、いわば8つの睦会の上にたつ惣領としての役割をもつ「惣町睦」が戦後しばらくして創設されました。各睦会から5人ずつ代表がでて構成されます。会長の元木三喜男さん(75歳)は、5歳のときから70年ほどお祭りに参加しているという筋金入り。「南部睦」に属する現在の東通りにご自宅がありますが、以前この通りは、「二子道」と呼ばれる街道だったそうです。元木さんのお父さまは左官屋で、戦前から下北沢の住宅街の家作りに携わった職人さんでした。いわば、お祭りの粋と伝統を心身で受け継いでおられる会長さんです。

元木三喜男会長 北沢2-9-19 電話(3467)6054

【四五睦会】～井の頭通りを越えてやってくる北端の睦～

北端は、井の頭通りを越えた先にある北沢5丁目からもお神輿はやってきます。元の北沢1丁目ですが、今は、笹塚駅の手前、「北五商店街」の皆さんを中心に北沢4・5丁目の地域で、北澤八幡神社まで片道5キロ、往復で10キロもの道のりです。

会長は、おじいさんの代には農家だったという地主の安野弘道さん(67歳)。北沢5丁目は、第二次世界大戦で空襲にあい焼け野原になりました。4丁目も飛行機のルートで焼夷弾が落ち、被害がありました。安野さんは、北沢小学校から疎開をした最後の学年。戦後すぐのお祭りは、地味なお神輿で、しかし、担ぎ手たちは怖いほどの無礼講だったそうです。

昔から住んでいる方が多い地域で、昔は畑だったという農道の気配が残る曲がりくねった細道をお神輿は練り歩いてきます。神社からあまりに遠いので、ひところは2年に1度だけお神輿を出していた時期もあり、一昨年まで、しばらくは、帰りはトラックで途中まで運ぶなど苦労を重ねてきました。何度も「お神輿はやめよう」という意見も出されてきましたが、平成15年に、大きなお神輿を新調。その後は、気合を入れて、トラックで運ぶようなことがないように頑張っています。新調されたお神輿は、世田谷区の老人施設「北沢苑」のロビーに飾ってあり、この施設で慰問活動もするなど活発な睦会です。

安野弘道会長 北沢4-27-19 電話(3460)1999

【四南睦会】～職人町の誇りをもった伝統的な睦～

「池の上駅」北側周辺の「四南睦会」は、「職人町といわれるほど職人が多い地域。お祭りになると血が騒ぐ人が多い」と、語るのは表具職人で55年ほどお神輿を担いでいるという後藤寿義さん(70歳)。戦前から、戦後にかけて分譲住宅街が広がった下北沢周辺で、住宅をてがけた大工、瓦屋、とびなど多くの職人さんたちが集まって住んだ地域だとのこと。

なにしろ、青年部だけで100人からいるという大きな睦で、よそからの加勢は少しですむという勢い。「一年にたった二日のお祭りだけれど、睦会では、新年の初詣から始まって、年末には火の用心の夜警まで、祭りを中心に一年の暮らしがまわっている」と、後藤さん。「自分のためというより、町のために一生懸命やれることは大きな誇り」と、神棚のあるご自宅でお天道さまと共にある健やかな暮らしぶりを伺ったように感じました。

個人のお宅でご接待所を設けてくださり、お神酒所が盛大なものこの地域。土曜日にも街を練り歩き、夜も11時くらいまで神輿を担いで、祭りが終わった時間の直会(なおらい)まで、賑やかに楽しむ睦会です。

後藤寿義会長 北沢1-30-17 電話(3465)4960

【東北沢睦会】～小田急線の地下化が待ち遠しいこれからの睦～

ちょうど小田急線が地域の真ん中を通して、3～4回も踏み切りを渡らなければならない「東北沢睦会」。「そりゃもう、大変ですよ。お神輿を担いだままの踏み切り待ちは大変。子供たちを踏み切りのたびに先に渡らせて、大人が太鼓を引っ張って綱を整えたりと時間がかかる。踏み切りがなくなったら風景も変わるだろうね」と、踏み切りのそばにお米屋さんを構える会長の矢島岩雄さん(57歳)は、小田急線の地下化を心待ちにしています。

地元の若い人が減って困っているとのことですが、以前は一緒だった隣の「北沢四南睦会」と共に、職人が多く祭りが根付いている土地柄。基本的によそからの担ぎ手はなしにすんでいる地域です。この数年、若い人が友人を連れてきたり、回復の兆しもあると期待します。奉納金を納めてくださる町内の方が多く、土日の二日をかけてその家々の前を行くので、

町内くまなく練り歩くことに。自分たちで建てるお神酒所の建物が立派なことも自慢です。

矢島岩雄会長 北沢3-19-6 電話(3467)5632

【新野睦会】～下北沢の商業中心地を擁する睦～

賑やかな北口にあるしもきた商店街と一番街商店街、北沢2丁目共和会と北沢3・4丁目西町会で構成される、下北沢の商業中心地にある「新野睦」。会長は、商店会の理事長を歴任してきた小清水日出夫さん(70歳)。天狗祭りや、阿波踊りでも盛り上がる地域ですが、北澤八幡神社のお祭りでは揃いの半被も威勢良く、このところは地元テナントの若い人たちの個人参加も増えているとのこと。担ぎ手募集のポスターが街のあちこちで目立ちます。子供たちには地元「モスバーガー」のお土産が人気。計画されている道路ができたらどうなるのかと心配の声も聞かれる地域でもあります。もともとは、「南部睦」と一緒でしたが、町名変更で井の頭線を境に二つに分かれました。

小清水日出夫会長 北沢2-25-20 電話(3468)0066

【南部睦会】～メインストリートを練り歩く人気睦～

賑やかな下北沢駅南口の商店街を擁するこの地域は、各地のお神輿愛好家たちに大人気。地元は高齢化が進み担ぎ手が減っていますが、「憧れの睦」として担ぎ手の希望者を断らなくてはならないほど。「新野睦」「南四睦」も、ぜひ南口商店街の通りを歩きたいと、駅前に三つの睦が集まって集合場所に向かいます。会長の瀬川弘之さん(70歳)は、元は時計・眼鏡店をやっていましたが、今は、貸しビル業。そうした方が多い地域でもあります。5歳のお孫さんもお友達と参加。子供が少ない地域で子供神輿を手助けしているとのこと。

1970年頃に「南部睦」の金子省吾さんが、昔ながらのお祭りを色々と改革をしていったとのこと。勢いのあった「金子葬儀店」社長として、浅草に、1000万円のお神輿をポンと買いに行った伝説の方。現在のように、各睦のおみこしがいったん勢ぞろいをして一緒に神社に昇っていく「連合渡行」を考案したのも金子さん。しかし、惜しくも、10年ほど前に62歳で亡くなりましたが、お神輿の歴史を振り返るときに欠かせない存在でおられたとのこと。

瀬川弘之会長 北沢2-13-7 電話(3487)5087

【代五睦会】～8つの睦がこの地に集合～

各地から神社に向かってきた睦会が、まずは集合するのが、共栄会商店街にある郵便局前、「代五睦」の地域です。神社にごく近い睦会ですが、近さに代わって集合地であるという気配りも仕事としています。会長の黒木公一さんは、クリーニング屋さんとして近所を隈なく歩いて地域に密着したお仕事をされる方。地域の世話人として会長になってからは、もっと住宅街の方たちにも参加していただくと呼びかけてきました。ご自身は、世田谷カソリック教会の信者でおられるとのことですが、街を見て歩くという神様を載せたお神輿を担ぐのはまた別のことと協力されているとか。飲み屋の常連たちがグループで参加したり、個人参加も大歓迎ですが、担ぎ手の不足は下代田東睦会と提携していることで補っています。お祭り

の前週には、「顔合わせ」をして担ぎ手どうしの親睦も深めています。

黒木公一会長 代沢5-9-13 電話(3414)2584

【宮本睦会】～神社のお膝元は閑静な住宅街が中心～

北澤八幡神社のお膝元の「宮本睦会」。お神酒所は、神社のまん前に神社と同じほども古い時代から地主でおられる伊東家で、お神輿はそこから出発します。北澤八幡神社は、氏子の地区の中では、かなり南端にあります。「宮本睦」は、池ノ上駅周辺からぐるり住宅街を囲むような地域で、実は、最も担ぎ手がいなくて苦労をしています。会長の古宇田弘さん(63歳)は、20年ほどまえに新橋から越してきた方。お子さんが小さいときに子供神輿の世話をしているうちに、会長を頼まれたとのこと。近辺に、洋服工房を数店舗も経営しています。

担ぎ手の不足から、こちらでは、町屋や下高井戸の地域や同好会の虎宮など盛大によそからの睦を受け入れており、むしろ、風通しのいい流儀をうるさくいわない睦として人気。お祭りの前週には「半被あわせ」で親睦を深めます。個人参加も大歓迎で、今年は、地域内のアンゴラ大使館勤務の女性からも担ぎ手の申し入れがあったと古宇田さんは喜びます。この数年、部分的にですが、女性陣だけで担ぐことができるほど女性の参加も多いようです。

古宇田弘会長 代沢2-14-9 電話(3414)4094

【代四睦会】～太子堂に隣接した最南端～

ももとは、「代五睦」と一緒の北端にある地区で一箇所だけ淡島通りのほうにまで伸びている地域です。左右を代田八幡など他神社の氏子地区に囲まれており、すぐお隣は、太子堂に接しています。地域の周囲を囲むように商店街がありますが、おおむねは住宅街。戦争中に焼夷弾で焼けたことから、かえって地区整備も進んだとのこと。会長の萩原一俊さん(56歳)ご自身が、10年前まではサラリーマンで転勤族。生まれた土地ではあるもののコミュニティの祭りには関心を抱いてはきませんでした。元は農家だった地主のお父さまが亡くなり後を継ぐようになって、初めて祭りに参加することになりました。「これからは、会社勤めをやめてコミュニティの暮らしに帰ってくる人たちが、もっと参加してもいい」といいます。これからの時代、地域に根ざした楽しみとしてお祭りが続いていくことにもなりそうです。

萩原一俊会長 代沢4-7-2 電話(5486)8835

*

睦会のお神輿は、それぞれの地域の方たちの奉納金で運営されています。お神輿の伝統をたやしたくないと、皆さん努力をされています。地元から多くの方が少しずつでも参加されることを睦会の皆さんは望んでおられました。健康な汗をかく皆さんに支えられている「お神輿文化」。これからも、絶えることなく続いて欲しいと願ってやみません。 by 高橋ユリカ (代沢3丁目在住/ジャーナリスト・HGC03010@nifty.com 「下北沢フォーラム」世話人)

* 市民系HP「Viva」にて「サステイナブル☆下北沢」を連載中。近日中に、お祭りの写真と共に記事を「サステイナブル☆下北沢 その10」としてアップいたします。

http://www.viva.ne.jp/library/scramble/archives/2005/07/post_33.html